

会 議 の 名 称	茅野市行財政審議会 第2回審議会		
開 催 日 時	令和元年8月29日(木) 18時30分～19時50分		
開 催 場 所	市役所703会議室		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
会長	<p>○議事</p> <p>1 開 会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 案件</p> <p>(1) 茅野市行政経営基本計画の進行管理について</p> <p>①行政経営基本計画の進行管理に関する意見・提言のまとめと対応</p> <p>資料1 資料1-1 資料1-2 資料1-3 資料1-4 別紙冊子 資料2</p> <p>②分野別計画進捗等報告書について 資料3</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p>○議事録</p> <p>1 開 会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 案件</p> <p>(1) 茅野市行政経営基本計画の進行管理について</p> <p>①行政経営基本計画の進行管理に関する意見・提言のまとめと対応</p> <p>資料1 資料1-1 資料1-2 資料1-3 資料1-4 別紙冊子 資料2</p>		
	吉澤主査	<p>・・・資料1に基づき説明・・・</p>	
委員	<p>まず、本日会議室へ来るまでに何名かの職員とすれ違ったが、元気の良い挨拶をいただいた。日本一の市役所にするためにもこのような取組は続けていただきたい。</p> <p>今回、指標を設定したインターネット動画のアクセス件数が設定時と比べ、中間年には20倍となっている。何か変わった取組を行うのか。</p> <p>また、先日新聞に出た、市内の10代後半の若者を対象としたアンケート結果では、将来も茅野市に住みたいと考える人は40%弱で、総合戦略の目標指標である60%は達成できない見通しとなっていた。全国的な課題ではあるが、市として何か取組は考えているのか。</p>		
田中地域戦略課長	<p>インターネット動画番組の目標設定については、思い切った目標設定とした。SNSからの誘導を進めることと、現在は特別に編集したコンテンツのみを掲載しているが、今後ビーナチャンネルの終息に向けインターネット動画へ切り替えていく予定としている。切り替え年限は決まっている</p>		

	<p>が、徐々に切り替えを進め、現在ビーナチャンネルをご覧になっている方にインターネット動画を視聴してもらえようようにしていくため、強めの目標とした。</p> <p>アンケート調査については、母数に対して、6%の回答があれば95%の世相を反映できるといった統計上のセオリーに基づいて調査を実施した。結果については、「将来、茅野市に住みたくない」が前回調査から2倍になり驚いている。今まで実施してきた施策が若者に受け入れられていないということを真摯に受け止めなければならない。具体的な施策などは未定だが、第2次総合戦略の策定時に、この結果を活かしていかなければならない。</p>
委員	<p>その調査では若者が将来就きたい仕事は「医療・福祉・調剤薬局」が18.8%で最多であったことに驚いた。そう考える若者は茅野市の宝になるのではないかと思った。</p>
委員	<p>別の会議でもアンケートの説明を受けたが、回答数が少ないのではないかと。また、調査方法も郵便ではなく、別のやり方が良いのではないかと意見が出ていた。別の機会が良いのでアンケートの数字を開示し、皆さんにも見てもらえば良いと思う。</p>
委員	<p>若者が将来就きたい仕事で福祉関係の仕事が多いことから、福祉の面から茅野市のブランド化ができれば、それも茅野市の一つの柱になると感じた。</p>
委員	<p>介護福祉金について、要介護3、4、5の方を介護している方に5万円の介護福祉金が出ている。個人的にも労をねぎらう文書とともに慰労金をいただき、非常に元気づけられた。ケアマネージャーから介護福祉金について廃止していく可能性があることを聞いた。財政的に厳しいかもしれないができれば継続していただきたい。現在、要介護3、4、5の方が対象だが、4、5の方を対象にするなど検討をし、金額は下げずに続けていただければ、自宅でごんばって介護を続けている方の一助になると思う。</p>
委員	<p>シティプロモーション戦略について、この冊子はどんな目的で作成し、誰に配布するものか。</p>
田中地域戦略課長	<p>職員と地域コミュニティセンターに配布した。外向けにはあまり出していない。まずは職員の意識を変える狙いがある。そのため、書き方が内向きのものとなっている。</p>
委員	<p>職員向けであるなら、内容は良く分かるが、冊子は立派過ぎる気がする。外向けであるなら内容が違ふと感じた。</p>
委員	<p>行政チャンネルとインターネット動画番組について、現在この地域のブロードバンド化は約70%である。この数字は全国的に見ても平均的な数字。10年前からそれほど変わっていない状況である。これ以上大きく伸びてはいかない状況である。インターネット動画だけでは、30%の方に情報発信をできないことを考えると、TVは一つの有効な手段である。</p>

	<p>また、動画を流すだけでは収益にならないので、可能であれば、広告を取り収益を上げることを検討してはどうか。</p>
委員	<p>諏訪中央病院では、各区から要請があった場合に座談会を開催している。座談会で区の方と話をすると、若者が出ていく、帰ってこないといった声が聞かれ、皆さんが危機感を持っていることが分かる。座談会では、テーマを決めて話をするが、最近では、若者が帰ってきてくれるにはどうすれば良いか、この地域に住んでもらうにはどうすれば良いかといった話題が出ている。ゆいわーくを活用した、広い市民のネットワークも魅力的ではあるが、住んでいる住民が捉えた問題意識の中から市全体に施策に活かせることがあるかもしれないので、身近な所へも目配せをいただき、施策へ反映させるといった視点を行政が持っていただくことや、様々な形での支援をお願いしたい。また、これから始まるまち懇などでも地域の声を沢山拾っていただきたい。</p>
委員	<p>公共施設の再編について、以前、ハザードマップを作る会社に勤務していたが、避難所を設定する際に、鉄筋コンクリート造りの民間企業が近くにあるのに、木造の公共施設を設定しなければならないことがあった。公共施設の再編にあたっては、ハザードマップも参考に行っていただくとともに、民間企業には、緊急時に一時的に社屋を開放していただき、避難場所として使用できるよう前もって話をさせていただきたい。</p>
委員	<p>資料 1-4 一般会計財政計画において、1 年度のブレが大きいと思うが、何がどう変わったのかコメントがあると良い。また、これが健全財政なのか分からないので、そのようなコメントもあると良い。</p> <p>その他の収入が 2020 年度から増えているが何が増えるのか。</p>
小平企画財政課長	<p>主に変更になった所は歳出の公債費になる。保育園や小中学校の空調設備整備に事業規模で 10 億円程が必要となり、起債を借りて事業を行うため、借金の残高が増え、また、基金の取り崩しも 2028 年度で 5 億円を見込むようになった。健全性という意味では将来的に若干不安な面が出てくる。</p> <p>その他の収入は、国庫補助金等が年度によって変わってくるによるものである。</p>
吉澤主査	<p>②分野別計画進捗等報告書について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料 3</span></p> <p>・・・資料 3 に基づき説明・・・</p>
委員	<p>「2 効率的・効果的な行政経営の推進」の施策を今後の重点化施策とすることについては良いと思う。財政運営の分野で持続可能性を担保しなければならないので、そのために今年度市で行っている全業務の棚卸は大変な作業になると思うが、やらなければならないこと。統一的な観点により、整理を行っていただきたい。</p>
委員	<p>全事務事業とはいくつあるのか。</p>
原田企画係長	<p>530 程度である。</p>

委員	かけたコストだけの成果があるか疑問である。選択と集中で 100 位の事業を集中的に実施すべきではないか。
小平企画財政課長	現場の事務担当者レベルの見直しと、企画財政課からも見直しが必要と思われる事業について提案し、見直しを行って行く。
委員	金額の大きい事業から見直しをしていけばどうか。
小平企画財政課長	金額の大きい事業はなかなか現場からは上がってこないもので、財政的な視点で当課から上げていく予定である。
原田企画係長	棚卸については、外部の視点も入れ事業を見てもらう。事務事業の中には、一部事務組合等への負担金など市としては手が付けられないものもある。そのような事業を除き、外部有識者を交えて検討する事業は 100 事業程度で調整している。
委員	外部有識者は具体的にはどんな人か。
原田企画係長	他の市の職員として長年行政を経験し、現在はコンサルタントを行っている専門家である。
委員	棚卸から実施していくことは良いが、世の中の動きが早い中で、縮小だけではなく、次のビジョンを明確にしなければならない。それを同時に進め、縮小した予算をどこに活かしていくかといったことがないといけない。大きな変化が起きる前に、何かしらの目に見えるビジョンが必要ではないか。
小平企画財政課長	市長が変わり新しい政策が出てくる。その新しい政策に振り向ける財源を確保していきたい。縮小だけではなく将来に向けてという考え方である。
委員	<p>様々な区の組織があるが、今の時代に合わなくなっている。この計画の進行管理においては、そのような危機感がなく、地域がうまくいっていないことが出てきていない。実際はそんなに明るくはないと思う。地域を持たない組織が沢山あり、区長も悩んでいる。そんなに順調ではないと感じているため、他の施策においてもそんなに順調に動いているのか疑わしく思う。</p> <p>自助・共助・公助の境目ははっきりとは分からない。常に自助と公助の狭間にいるが、その辺のやり取りがうまくできないか。また、広報紙と SNS がかけ離れていると感じる。市と地区、区、住民の情報がうまくやりとりができる方法を考えなければならない。</p>
有賀 P 推進課長	様々な組織がある中で消えてしまったものもある。また、役員のやり手がないことなどは茅野市だけの問題ではないが、解決していかなければならない課題である。連携については、地区や市だけになってしまったりするとうまく連携ができない。それぞれには課題があるため、これから考えていかなければならない。

田中地域戦略課長

ネット上だけでは意思疎通は図れないと思う。相對して話を聞く・伝えるといった部分は必要である。地区との意見交換の場としては、地域をまとめる地区運協があり、職員が意見交換させていただいている。また、まち懇や市民からの直接の意見、各地区区長会長との意見交換など様々な手段で地域の皆さんとの意見交換に努めていきたい。

#### 4 その他

事務局から

・今後の審議会について、今年度は特別な案件が出てこない限り今回で終了となる。

・総合計画審議会へは、当審議会を代表して金子会長に出席をお願いしたいと思うのでご承知おきいただきたい。

#### 5 閉会

次回は来年度になると思うが、よろしくお願ひしたい。

会長